

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	下関市社協 グループホーム たんぽぽ		
所在地	下関市豊北町矢玉129番地		
電話番号	083-788-0038	事業所番号	3570101935
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 22 年 2 月 24 日	評価確定日	平成 22 年 5 月 20 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	6 人
職員数	7 人	常勤 6 人 非常勤 1 人 (常勤換算 6.2 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 20,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額	20,000 円		
	内訳	光熱水費 10,000円	日常生活費 10,000円	

(4) 利用者の概要 (1月24日現在)

利用者数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
	要介護 1	0	要介護 4	3	
	要介護 2	1	要介護 5	1	
	要介護 3	1	要支援 2	0	
年齢	平均 87.2 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 豊北病院、重本病院 歯科 佐々木歯科医院
-------------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

古民家を改装した事業所で、住み慣れた家の匂いや生活音の中で自分らしく落ち着いてゆったりと過ごすことができるよう工夫され、地域の方が日常的に訪れやすい雰囲気です。運営推進会議のメンバーの充実や地域住民の協力による災害時や救急時の支援体制、医療機関との連携等で、利用者、家族が安心して毎日を過ごすことができるよう支援されています。また、事業所独自の1年間の新任、現任の研修計画を作成され、段階的に実施しておられ職員一人ひとりのスキルアップにも取り組んでおられます。

(特徴的な取組等)

アセスメント表、介護計画、サービス提供記録等の様式の工夫がされており、一人ひとりの現状に応じてのケアの内容や目標達成などが、家族や職員にも共有しやすくされてます。主治医等に連絡する際の連絡基準が利用者ごとに個別に作られており、全職員が日常の健康管理や急変時に対応出来るよう共有に努め支援しておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前年度の評価結果については、運営推進会議への警察や消防署職員の参加の検討をされています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義について説明され、自己評価書をコピーして配布し、記入後に内部研修として全職員で内容を検討したものを管理者がまとめておられます。職員はケアに対しての反省とともに、検討することで意識の向上に繋げておられます。

(運営推進会議の取組状況)

定期的開催され、家族会代表(2人)、自治会長(2人)、民生委員(4人)、漁協婦人部、老人クラブ(2人)、子ども会役員、緊急連絡協力員、豊北総合支所職員、地域包括センター職員等20名で外部評価結果や研修状況、事業所の現況の報告を行い、意見交換をして避難訓練等に協力を得るなどサービスの質の向上に活かされています。

(家族との連携状況)

全ての家族が月1回は来訪され、ホーム便りを渡されたり、健康状態や職員の異動、金銭管理などの定期的な報告をされ、意見や要望を聞いておられます。また、家族会を年3回開催され、事業所行事への参加のお願いや、事業所の夏まつりには家族の出店の手伝いをお願いしておられます。状態変化などは電話で連絡しておられます。

(地域との連携状況)

事業所の夏まつりには、子ども会など地域の方の手伝いがあり、地域住民や子ども達がたくさん参加され、ポスターの掲示、チラシの個別配布もされています。中学生の職場体験やヘルパー2級の実習生の受け入れ、地域住民を含めた緊急連絡網の整備もされています。事業所周辺の清掃や室内配線の修理ボランティア、近所の方々からの野菜の差し入れや散歩時の挨拶、交流など地域の一員として、ゆったりと過ごされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「地域の中で その人らしく ありのまま暮らし続けるように支援する」という地域生活の継続を大切にする事業所独自の理念を作り上げている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関に掲示したり、朝、夕のミーティング時に確認するとともに、理念の実践に向けての取り組みをしている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の春、秋のまつりに参加するとともに、事業所の夏祭りには地域の方々の協力があり、子どもや住民が多数参加している。施設周辺の清掃や室内配線の修理ボランティア、近所の方からの野菜の差し入れと、日常的に交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義について話し合い、職員、事業所のスキルアップに繋がるという意識を持ち、日々のケアに活かす取り組みに努めている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>家族会代表、自治会長、民生委員、漁協婦人部、老人クラブ、子ども会役員など20名で定期的に開催して、避難訓練、外部評価の実施報告、現況報告、研修状況等の話し合いを行い、意見をサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課とは、相談や情報交換などで連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会が年3回開催され、事業所の行事への参加や夏まつりでの出店の手伝い等家族と連携している。また、月1回の来訪時に意見や要望を聞くと共に、ホーム便りを渡したり、健康状態や職員の異動、金銭管理等の定期的な報告をしている。状態に変化がある場合等は電話で連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議、家族会や面接時に意見や要望を聞くように努め、相談や苦情の受付窓口及び担当者、第三者委員や外部機関を明示し、苦情対応マニュアルを作成している。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事、通院や体調不良などの対応は、遅出が1時間の延長や管理者が対応している。職員の急な休み等については公休出勤対応などで、柔軟に勤務調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を抑える努力をしている。替わる場合は日勤は1ヶ月の重複勤務後に夜勤1回の重複勤務などで、利用者のダメージを防ぐように努めている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所独自の年間の研修計画を作成している。レベルアップ研修を実施し、利用者への理解と職員の資質の向上に努めている。外部研修は勤務の一環として参加し、復命、共有している。また、日常的に学ぶことを推進している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	系列のグループホームとの勉強会や情報交換、市のケアスタッフ会議にも参加して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前の自宅訪問で利用者や家族と面接したり、事業所の見学を経て職員や他の利用者、環境に馴染めるよう家族等と相談しながら、サービスを開始するようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>介護する側、される側ではなく、日々生活する仲間として関わり、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を分かち合い、共に支え合える関係づくりに努めている。職員が利用者から感謝の言葉をかけてもらったり、和やかな生活が出来るように声かけをしている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族会や面会時に聞き取りを行い、環境状況の細やかな把握やアセスメント様式の工夫、サービス提供記録の充実などで情報を検討し、整理して共有するとともに、身体状態の把握に努めて、一日の過ごし方の希望や思いを本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>職員、家族にケアプランの内容をわかりやすくするために、目標達成に必要なこと、具体的ケアを記載して、課題とケアのあり方について担当者の原案を検討し、意見やアイデアを反映した一人ひとりに合った細かな介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的見直しは3ヶ月毎となっているが、実施状況、サービス提供記録、目標達成案の明示などからモニタリング、評価を行っている。見直し以前に変化が生じた場合は、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院介助、個別の外出の支援、訪問診療、美容院の送迎の支援等、柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他に本人、家族の希望するかかりつけ医の受診の支援や訪問診療に来てもらうケースもあり、情報の伝達方法も共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族会で事業所の方針について説明し同意を得るとともに、状況の変化に応じて繰り返し話し合い、家族の気持ちや本人の思いに注意を払い支援につなげている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの確保のマニュアルを作成し、研修をするとともに、個人情報保護法の理解に努め、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。記録類は目に付きにくい場所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の健康状態を共有し、その人らしい一日の流れにあう支援をするため、細かな介護計画書を作成して、食事や入浴、就寝起床など利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に収穫した畑の野菜、近所の人からの差し入れの野菜、地元のスーパー等で購入する旬の食材を使って三食とも調理をして、味見や後片付けを一緒に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう工夫している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者一人ひとりのタイミングを図り、声かけや意向を確認しながら、原則としては2日に1回15時から17時の間での入浴となっているが、リハビリを兼ねる等利用者の状況に応じ、毎日の入浴も可能である。入浴を嫌がる場合には声かけ、タイミングなど工夫して一人ひとりの気持ちや習慣を大切にして支援している。また、シャワー浴や清拭の対応もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの思いや意向にそってタオル、おしぼりたたみ、洗濯物たたみ、野菜の収穫、庭の草取りや花の手入れ等の活躍できる場面作りや、ドライブ、系列のデイサービスに行き保育園児と豆まき等の交流をするなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの散歩や玄関先での茶話会、四季の花見や初詣、ドライブなど一人ひとりの状態や希望にそって、戸外に出かけられる様支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての方針、マニュアルを作成し、勉強会を実施している。職員は正しく理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、一人ひとりの居場所確認の工夫をして、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと・事故報告書の記録はきちんと整し、保存され、事故防止策を緊急ミーティングで検討、回覧、共有して一人ひとりに応じた再発防止に努めている。事故防止の勉強会も実施している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、応急手当での訓練の計画をされている。夜間時の連絡、対応方法についてはシュミレーションをしているが、年間を通した初期対応の訓練は充分でない。	・応急手当、初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練実施(職員間での訓練、消防署との訓練)では、運営推進会議メンバーや地域住民と一緒に実施している。緊急連絡網や支援体制を整備するとともに、非常用食糧、水の備蓄の用意もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個別にファイルして、目的や副作用、用量等を把握し、3回の配薬確認、服薬は飲み込みまでの確認をしている。薬の変更等は申し送りして共有し、必要な情報は医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを支援している。夜間に使用後の歯ブラシ、コップの消毒、義歯は月6回の消毒の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量の記録をするとともに、一人ひとりの健康状態や力、習慣に応じてきざみ食、軟食などの対応をしている。栄養バランスについては資料の提供を受けている。	・栄養士等の指導、助言
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアル、蔓延防止のマニュアルを作成している。新型インフルエンザの勉強会の実施、手洗いの励行、手すり、トイレの消毒は1日1回実施し、消毒済のおしぼりの使用やインフルエンザの予防接種など、予防や対応を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	古民家を改装し、回り廊下に手すりを設けて動きやすく工夫し、見慣れた家々、川や畑も眺めることができ安らげる。また、食堂には四季の花々がさりげなく飾られ、食欲をそそる調理の匂いがしたり、生活感や季節感のあるものを上手に利用して、居心地の良い共用空間となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、ソファ、時計、仏壇や家族の写真や好きな人形、絵画が持ち込まれており、利用者の居心地の良さに配慮している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	下関市社協 グループホームたんぼぼ
所在地	下関市豊北町矢玉129番地
電話番号	083 - 788 - 0038
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (1 月 24 日現在)

ユニットの名称	グループホームたんぼぼ			
ユニットの定員	6 名			
ユニットの 利用者数	6 名	男性 0 名	女性 6 名	
	要介護 1		要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	1
	要介護 3	1	要支援 2	
年齢構成	平均 87.2 歳	最低 81 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフ全員に自己評価書を配布、記入後提出してもらい内部研修等で内容を検討し全体の自己評価書を作成、自己評価を実施する。
評価確定日	平成 22 年 1 月 25 日

【サービスの特徴】

【認知症に対する考え方】

どのような状況下であっても、普通の暮らしの中で、生きているという実感を持てるような支援を行ってゆく。(人としての普通の暮らしの継続)

【入居者に対する接し方の工夫】

介護する側、される側ではなく、同じコミュニティーで生活する仲間として関わる。個別のニーズに対応する。(例: デイサービスの利用、美容室での整髪等) 個々に合ったコミュニケーション方法で接する。

【サービスの提供体制】

職員処遇 できるだけ連休が取れるようにしている。
志気高揚 施設理念の掲示、ミーティング(朝・夕)での啓発。
研修等 ケア会議(毎月1回)、レベルアップ研修(毎月1回)計画的に実施することで、利用者への理解とスタッフの資質の向上に努めている。

【家族、地域、ボランティアとの交流】

家族 家族会の開催(年3回)、行事参加(夏祭り等)。
地域 夏祭りや地域の祭り(春・秋)への参加、近隣の美容室での整髪。
ボランティア 施設周囲の清掃、室内の配線修理、行事手伝い等。

【ホームの特徴】

民家改修型の地域に根づいた出入り自由の家庭的な雰囲気を持つ。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>今までの関係を大切にしながら、気軽に訪れてもらえるように環境を整え、機会を増やしたい。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>今年度は、新型インフルエンザの流行や悪天候の為、地域の祭りに参加できなかったが今後は参加できる環境を作って行きたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>今後は、話し合いを持ち職員全員に周知徹底を図りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者は、自己評価、外部評価の意義について理解し研修、会議等で取り上げ職員への啓発に取り組んでおり、自己評価については職員全員が行っている。しかし具体的な改善への取り組みには至っていない。	評価内容を精査し、具体的な取り組みを行って行きたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議ではホームの現状報告や意見交換を行い、行事の実施や防災対策等に対し協力を得ている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行事(夏祭り)等への参加を得ているが、機会は少ない。	今後は、電話での連絡、相談を含め機会を増やして行きたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	内部研修(介護保険制度)で概要説明は行っているが、詳細の理解へは至っていない。	学ぶ機会を設け、必要な方への活用、支援に取り組んで行きたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内、外(新任者研修、リーダー研修等)で研修を受け理解し介護に当たっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、契約書、重要事項説明書に沿って説明を行い理解、納得を図っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口、外部機関、第三者委員等明示している。適切にコミュニケーションをとる事で、意向を汲み取り、介護に活かすよう努めている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会時、ホームの状況報告の中で職員体制についても報告している。面会時には広報(ホームだより)の配布、金銭出納簿の確認、金銭預かり証の交付等個別の報告に努めている。体調変動時は、随時、連絡調整を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	開示要請に応じ、開示手続きの支援を行うよう努めている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談窓口、外部機関、第三者委員等明示している。家族会や面会時に意見や要望を聞き、介護に活かすよう努めている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや研修(内部)の中で聞く機会を設けており反映できるよう努めている。(業務内容の変更、室内改修、配線工事等)		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や外出、通院時等、利用者の状況に応じ(退院直後、体調不良)勤務の時間調整を行い支援している。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年度は、離職、異動が多かったが勤務帯を重複勤務とするなど対処することで利用者へのダメージの軽減を図っている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画的に研修計画を立て参加する機会を設けている。研修で得た知識は、日々の介護に活かしている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	・年齢 20代～60代、 ・性別 女性6名、男性1名 ・経験年数 1年～15年 ・資格 看護師1名、介護支援専門員2名、介護福祉士3名、ヘルパー2級2名 上記の職員を配置し利用者の暮らしに対応している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営会議やグループホーム連絡会議での情報交換や勉強会によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの基本的な考え方であり、日々の生活の中で本人を軸に互いに喜怒哀楽を共有している。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	生活暦や家族暦等の把握に努め、利用者のホームでの情報を的確に提供することで支援に努めている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地元で人の多く集まる美容院での整髪や、季節の祭りへの参加支援をするなど、知人や友人と会う機会の確保に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一緒に過ごす活動の時間帯や個々に過ごす時間帯を設けたり、場合によっては、位置取りの工夫や仲間づくりなど利用者同士のかかわりが持てるよう配慮に努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じ、いつでも相談や支援に応じるよう努めているが、定期的に情報提供や収集は行っていない。		定期的に近況報告等実施して行きたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の日々の様子から汲取れない場合は、家族会や家族、知人の面会時に職員(主に担当)が分かっていない部分の聞き取りを行い、ケア会議、アセスメント作成時に情報の積み上げ、検討を行い整理、共有している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族会や面会時に職員(主に担当)が分かっていない部分の聞き取りを行い、ケア会議、アセスメント作成時に情報の積み上げ、検討を行い整理、共有している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメントや介護計画書を作成する事で一日の過ごし方や生活の流れ、持てる能力を把握し、ミーティングで情報の共有を行う事で、身体状態を把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメント作成、ケア会議の実施(月/1回)時に収集した情報の積み上げや整理、検討を行い、職員(主に担当)が原案を作成、計画作成担当が取りまとめを行い作成している。作成に時間がかかる為、様式については、整理検討中。	できるだけ確に、要点を絞り込んだ計画書様式を作成する。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	概ね3ヶ月毎に見直しを実施し、ケア会議(月1回)の実施時、変更事項については整理、把握を行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のサービス提供記録に総括的に記入し、確実に閲覧(押印)する事で情報の共有を行い、計画書の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所として、多様な支援の提供への思いはあるが、実施には至っていない。	今後、検討して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員は、運営推進会議のメンバーにも入っており、行事参加時は協力を得ている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ヘルパー2級講習や中学生の職場体験の受け入れを積極的に行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	1週間に1回の頻度で、認知症対応型通所介護事業所を利用している。(1名)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの保護、個人情報の保護、人権を尊重した対応を心がけている。</p>	<p>徹底して行きたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合ったコミュニケーション方法を把握し、適切な支援により意志の表出を図るように努めている。またアセスメント等で情報を共有している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>洗濯物、タオル畳み、おしぼり畳みなどは、個々の持てる力に応じ行えるよう支援している。調理については、味見やゴマすりなど行っているが、範囲は狭い。</p>	<p>重度でも、役割や場面づくりの工夫をする事で機会を増やしたい。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>状況に合わせ、夜更かし(夜遅くまでテレビを観る)や眠れなかった日は朝寝坊をするなど、利用者のペースに合わせた支援に努めている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>概ね2ヶ月に1回程度、全員が近所の美容院を利用しているが、他町出身の利用者については、必ずしも望んでいる店とは言えない。</p>	<p>行きつけの店を確認し、体制をとり支援して行きたい。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>身体状況や持てる能力に応じ、食べた食器を重ねたり、台を座ったまま拭いたりしてもらい、スタッフも一緒に食事を摂るようにしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現時点では喫煙者や飲酒者はいないが、飲み物やおやつは、利用者の嗜好に合わせ提供できるように支援している。(甘いものが苦手な利用者にはせんべい類を提供)</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄サインの見極めや最終の排泄時間の確認をを行いながら、日中はトイレ誘導、夜間は自室にポータブルトイレを設置し誘導。パンツ型オムツから布パンツへの移行を実施するなど適切な排泄支援を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在金銭を所持している利用者はいない。	今後可能性のある3名の利用者について、家族と調整をとりながら所持について検討して行きたい。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事や通院、美容院の利用など外出はしているが、日常的な散歩、買い物については、実施できていない。	天候の状況を見ながら、散歩や外気浴の機会を持てるよう支援したい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	他の事業所での行事参加(七夕)や初詣等へは出かける機会を持つ事ができたが、家族と共に出かける小旅行については、企画したが、新型インフルエンザの影響で実施に至らなかった。	次年度は必ず実施したい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在実施してる利用者はいない。	検討して行きたい。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関踊り場と居間をフローリングにし段差を解消、スペースを広げくつろげる雰囲気的空間作りを行い、他の家族や職員と一緒に歓談、お茶を飲むなど、自然な形で過ごせるように支援している。	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在実施してる家族はいない。	希望があれば、対応したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇を整備し、ベンチを設置、日中は、施錠せず自由に入ることができるようにしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	四季の花を活けたり、居室にはカレンダーを掛け、窓越しに鑑賞できるよう季節の花を設置するなどして、心地よく過ごせるように工夫をしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にソファを設置、食堂でも思い思いに過ごせるようにしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や人形、仏壇などを持ち込み利用者の居心地の良さに配慮している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日一回必ず喚起を行い、温度計を設置、利用者の状況に応じ温度調整を実施。夜間の排泄誘導は、前もって暖房を施し室温を調節した上で実施している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	福祉用具を設置し、個々に合った安全な使用への支援に努めている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	配膳の工夫(一品ずつ提供)や色のついたご飯茶わんの選別 早めの排泄誘導など混乱や失敗を防ぐよう配慮している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の廊下から見える位置に花を植え、移動時窓から観て楽しめるようにしている。玄関前にベンチを設置し、外気浴、日光浴ができるようしてあるが、頻度は少ない。	天候の良い日は、実践して行きたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない